

市史通信

【目次】

- 開港九〇年記念事業
- 記念絵はがきと記念スタンプ
- 横浜大空襲罹災の実相
- アンケート集計結果より
- 開架資料紹介『横浜の町名』
- 市史資料室たより



「おもいで開港展」横浜YMCA会場内の様子 1948年

第28号

【発行日】2017年3月31日
 【編集・発行】横浜市史資料室
 〒220-0032
 横浜市西区老松町1番地
 横浜市中央図書館・地下1階
 【電話】045-251-3260
 【FAX】045-251-7321
 【E-mail】
 so-sisiryou@city.yokohama.jp
 【ホームページ】
<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/gyosei/sisi/>

開港九〇年記念事業

横浜市は、一八五九（安政六）年横浜開港から、「周年」や「年目」の区切りの年に記念事業を行ってきた。太平洋戦争直前、戦時の一九三九（昭和十四）年六月二日開港記念日にも、「事変下に於ける厳粛と緊張とを趣旨としてお祭験の催しは廃することになつたが」、「折柄九号岸壁繫留中の郵船榛名丸（一萬四百噸）上甲板に於て」祝賀会が行われている（『横浜市報』三九年五月二十五日、六月八日）。

次の区切りである一九四八（昭和二十三）・四九年は占領下であった。そのため大々的な行事は行われていないが、関連の行事と展示会等が行われている（曾根妙子二〇〇二）。四八年六月二日には、運輸省第二港湾建設部と横浜市の共催により、高島埠頭において横浜港建設復興式が行われた。併せて二港建では、小冊子『横浜港の再建』を六月二日付で発行している。また、六月二日から六日まで「開港九十年記念　おもいで開港展」が市民生局文化課によって開催されている。ここでは、部分的に紹介されている関係簿冊「開港九十年記念　おもいで開港展関係書類」（横浜市各課文書二八）から、この展示会について紹介していこう。

「おもいで開港展」展覧会要項

この「開港九十年記念　おもいで開港展」が、いつ頃に企画されたのか

は不明だが、準備委員の第一回打合会は、六月二日の一箇月前の五月三日であつた。打合会は、その後、一二・一八・二〇日に行われている。「展覧会要項」では、名称は「おもいで開港展」、会期は六月二～六日の五日間、会場は横浜YMCA（Young Men's Christian Association）、横浜市・

表1 「おもいで開港展」準備委員

所属等	名前
横浜ユネスコ協力会	秦孝治郎、吉村昌雄
YMCA	森栄一、海老沢廉、広田兼敏
企業	李家孝（三菱重工業）、箕浦多一（日産重工業）
商工会議所	赤尾秀高
史料関係	青木純二、軽部三郎、中島満洲夫、軽部亀松、海老沢有道、飯田九一、添田坦、池谷健治、熊原政男、岡本孝正、石野瑛、丹波恒夫、関靖、田中佑幸、牛田鶴村、岡本三郎、長尾静明
市政記者室	河村貢、小貴喜堂
文化政策委員会	上條治、木村実
横浜市	藤野千萬樹、菊谷勇夫、田代政治、吉田仁吉、彦由一、玉岡三男
幹事	小川喜代司、石井光太郎、森田亀太郎、大杉東、土田豪州、茨木彌蔵



写真1「おもいで開港展」ポスター

Y M C A・横浜ユネスコ協力会の共催であった。なお、最初の文書では雑誌

「月刊よこはま」が共催に記載され、訂正で同誌を編集していた横浜市文化政策委員会が記載されたが、これも削除されて三者の共催となつた。写真1のポスターなどを見ると、横浜商工会議所と神奈川新聞社が後援となつてゐる。

当時、横浜Y M C Aは中区常盤町の会館が米軍に接收されており、山下町の旧市立女子専修学校の建物を借用していた。横浜市の会場となるような施設の多くは接收されていた。

横浜ユネスコ協力会は、同年五月八日に、会長秦孝治郎・副会長大隈信幸を選出しして発足したばかりであつた（神奈川新聞五・九）。

展示会の準備委員は、表1にあるように共催の三者その他に、商工会議所や企業、横浜市史料調査委員や史料所蔵者、新聞関係、共催にはならなかつたが文化政策委員会からも選ばれている。

展示内容は、「写真、絵画、絵図等を中心とする横浜開港当初より明治中期に至る間のいろいろの動き」とつており、開港から明治中期までの展示であった。

市役所内における経費の負担は、民生局が文化振興費の補助負担金及交付金から二〇、〇〇〇円、教育局が社会教育費から二〇、〇〇〇円となり、主管は民生局文化課であつた。予算では、この他の収入として入場券売上金一六〇、〇〇〇円を計上し、計二〇〇、〇〇円が総予算であつた。

展示資料について

「開港九十年記念 おもいで開港出品目録」では一三四件が掲載されている。この出品目録では（一）（二）や其一其二となつてゐる項目もあり、『展覧会概況』では出品数が一六一点となつてゐる。なお出品目録は一枚二円で販売していた。



「おもいで開港展」開催

神奈川新聞では、六月二日の紙面に

「門外不出の逸品ぞろい」との見出しが見越される」と報じた。一日当たり二〇、〇〇〇人となり、かなり強気の予想をしている。

展示会場となつたY M C Aには、写真2のように入り口には黒船を模したアーチを設置している。実際の展示会場は写真3のように比較的広い場所に展示されており、講堂か体育館と思われる内部の清掃を行い、写真に見える白線も新しく引かれている。

さて簿冊には、準備段階の資料は第一回打合会の資料のみである。それ以外は、展示が終了した後の精算関係の資料である。次にこれらの資料から、実際の展示の一端を見ていく。

展示の構成は「昔の横浜」・「開港前後の横浜」・「横浜開港當時」・「明治初年の横浜」の四部となつていて。このうち、「横浜開港當時」が六五件、「明治初年の横浜」が四五件とこの二項目が主で、開港前を示す「昔の横浜」は二件だけであつた。

展示品をみると、例えば「横浜開港当时」では、大平錄御貿易場・オロシヤ国船略図・海陸御固泰平鑑・神國泰平施品鏡・横浜仏国役館の全図・横浜海岸フランス役館の図・横浜交易双

利加蒸氣船・亞墨利加大船の図・横浜各国商館の図など横浜浮世絵が主な展示品で、他の部も若干の地図類のほかは浮世絵が主なものであつた。

